

近畿ブロック

【健康生きがいアドバイザー活動の発表】 2016.11.13

想い（取り組み：ブロック構成は、今年で14年になる）

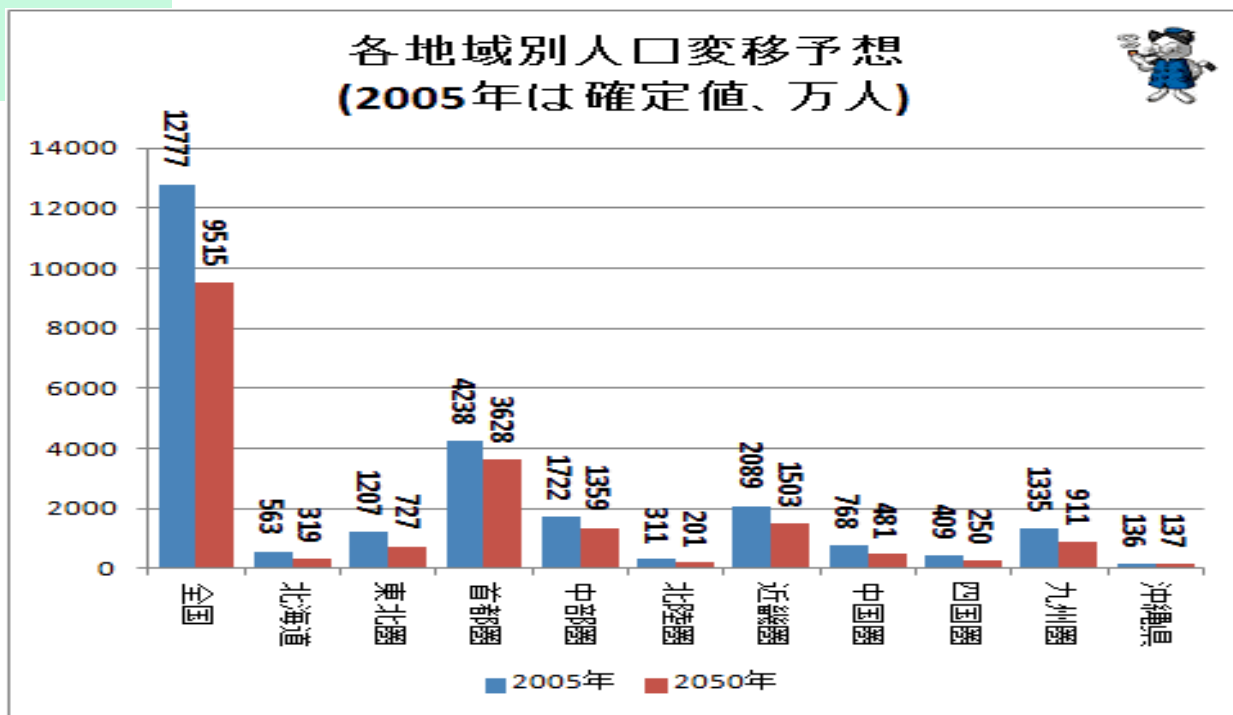
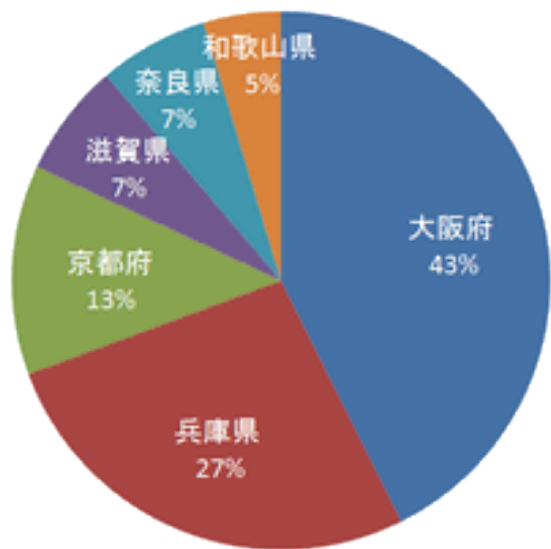
つながろう 心ひとつに 育てよう 地域のちから

- ・ 滋賀県 一般社団法人滋賀県健康生きがいづくり協議会
- ・ 京都府 健生ネットワーク京都
- ・ 大阪府 NPO法人生きがい大阪
- ・ 大阪府 健康生きがいづくりアドバイザーなにわ協議会
- ・ 兵庫県 兵庫県健康生きがいづくり協議会
- ・ 奈良県 一般社団法人奈良県健康生きがいづくり協議会
- ・ 和歌山県 和歌山県健康生きがいづくりアドバイザー協議会



府県名	昼間人口 (千人)	常住人口 (千人)	流入超過 (千人)	昼夜間 人口比率
大阪	9,294	8,863	431	104.9
京都	2,664	2,637	27	101.0
三重	1,820	1,855	-35	98.1
和歌山	979	1,001	-22	97.8
滋賀	1,362	1,410	-48	96.6
兵庫	5,352	5,589	-237	95.8
奈良	1,249	1,400	-151	89.2

【2010年】



プロセス（ブロック会議の運営）

- 平成28年6月26日（日）第14回近畿ブロック会議in和歌山で開催した
 テマ「人生は二幕目がおもしろい！健康生きがいづくりアドバイザーの挑戦」
 出席者、総勢24名の各協議会のメンバーが、1泊2日で課題の議論&親睦を深めた



～第14回近畿ブロック会議 in 和歌山～
 「人生は二幕目がおもしろい！健康生きがいづくりアドバイザーの挑戦」
 (概要) タイムテーブル

【日時】 平成28年6月26日（日）和歌山駅東口12:00～（時間厳守） 発
 【場所】 花玉有田研修所（和歌山県有田郡）会議 13:30～
 【問合せ】 健生わかやま 市野 090-6904-4039
 廣 090-6732-5053
 梅本 090-2287-6179

○6/26タイムスケジュール

時刻	所要時間	項目	内容
12:00	移動7.5分	和歌山駅東口集合（時間厳守） マイバスにて、研修所に移動 履修の予定、現地13:00	・参加者確認 ・会費¥12,000徴収
13:30	30分	・予定説明 ・近畿ブロック会議 開会挨拶	・司会 健生わかやま 梅本 ・担当挨拶 市野 ・財団 大谷常務理事
14:00	60分	・スキルアップセミナー	1. 「新高齢社会の創造」 大谷さん 2. 「あるべきアドバイザーの姿」 吉田さん 約20分×2 質疑応答
00	60分	・協議会活動報告 (休憩を挟みながら)	3. 近畿ブロック8協議会より 約5分×8 質疑応答
	60分	・課題発表	4. 新地域支援事業について 5. 100歳大学について 國松さん 6. 健生ネット流通販売の考え方 宮川さん
	30分	・課題議論 ・来年度の幹事票送り ・閉会の挨拶	7. 協議会活動と関係する団体との 連携効果について

- 毎年、6月末に持ち回りの協議会が開催日とテーマなどを担当する
 平成29年6月24日（土）第15回近畿ブロック会議in奈良で開催する予定
 めまぐるしい時代変化を受けての古都奈良での開催は新たな成果が期待できるのでは！？

キーワード：

健康生きがいアドバイザーの役割

生きがいを構成する要素

- ・ 健康
- ・ 地域・家族
- ・ 社会参加
- ・ 経済

如何に就労に結びつけるか？

地域包括ケアシステムの構築を目指す

2025年を目標に！

社会の枠組みが大きく変化

- ・ 人口減少と少子高齢化
- ・ 働き手の減少
- ・ 認知症者の増加
- ・ 核家族化と孤立化
- ・ 非正規雇用者と無年金者の増加
- ・ 尊厳の保持と生活の質重視



「人生は 二幕目が おもしろい」 ～人生を豊かに[わかやま100歳大学 構想]～



FM岡山健康生きがいづくりアドバイザー協議会 会長
NPO法人岡山県健康科学センター 理事長
市野 弘氏

私達の平均寿命は大きく伸び毎年100歳人口が増加してきている。100歳まで生きるのが当たり前となる社会が目の前に来ていると言っても過言ではない。

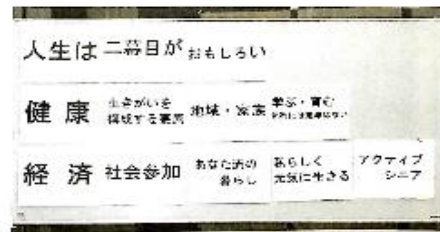
○日本の人口構造（超高齢化と人口減少）と長命の姿
—従来の常識の通じない長生き社会、認知症の急増

○日本世帯構造変化と高齢化（後期高齢者の急増）

—従来の家族の概念の通じない

世帯構造・2025年が節目

このような超高齢社会に向けて住み慣れた地域で誰もが



安心して暮らし、高齢者自身が現状を理解して主体的に自立して健康づくりや介護予防、生きがいづくり、社会参加などに取り組み、実践継続することにより、健康で豊かな老後を目指す為の施策として「わかやま100歳大学」構想を提案したい。

わかやま100歳大学の構想とは、65歳以上の新規高齢者を中心に福祉や健康づくり、生きがいづくり等、老い方の基礎を体系的に学んでもらう講義と実技で構成している。週1回90分の講義を1年で40コマを受講してもらう学び直し（第2の義務教育）により、高齢者が生活支援の中心的な担い手として参画又は、新たな意義や職業、副業といった働き方がより、健康づくりと生涯現役社会がうまく統合的に生み出されると思っている。

今後のこれからの社会構想では、自己決定が尊重され、自立出来る方の自助を助仕・応援する必要がある。例えば、今後は病気の治療ではなく予防に重点を置き、健康であることに適切なインセンティブを用意することで、持続可能な社会保障制度のもと、社会全体として安定的に健康寿命を延ばすことが可能になる。老後の生活保障でも、健康で働く意欲のある方には就労を支援したり、可能な限り自助を後押しする必要がある。

さらに、現役世代への社会保険は、半ばでしや就労への支援を中心として、自助を応援していくことが求められる。このような思いを持って今回の卓話のまとめとしたい。



例会終了後、市野さんと記念写真

今後の近畿ブロックの役割と期待

1. 成果：

- (1) 例えば、滋賀県のようにホームページ (HP) <http://www.ikigai-shiga.com/> フェイスブック (facebook)等のインターネットを活用した広報 (情報公開) の進歩がある。
- (2) 地域の社会事業の活動について、協議会まとめにしっかりと報告されている。
- (3) 協議会の活動計画として、年度目標の指針に明示されている。

***健康生きがいつくり協議会は、仲良しクラブで老人会や自治会の様な地縁組織に類する傾向も見られたとのことだが、今は、そうではないと断言できる。**

2. 課題：

- (1) キーワードに記載した、生きがいを構成する要素を基準に、各協議会が関わる目標を明確にし進めて行くこととする。
- (2) 必要に応じて先進事例を別の協議会に教示してもらうなどの協力を体制を作っていく。
例えば、和歌山の場合は、100歳大学の構想を滋賀県にアドバイスを受けている。
- (3) 非常に動きの速い現在、厚労省などの国や市町村行政の政策動向の情報を常にキャッチする必要がある。

3. 今後：

近畿ブロックとして、常時に情報交換や必要に応じて人脈交流をしていきたい。